

2021年3月26日現在

書籍をご購入いただいた皆様へ

大原出版株式会社

【正誤表】

農業経理士教科書【経営管理編】（第2版）

平素よりご愛顧いただき誠にありがとうございます。

誠に申し訳ございませんが、本書の記載内容に訂正がございます。

ご購入いただいた皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、下記該当書籍及び訂正内容をご確認のうえ、ご使用いただきますようお願い申し上げます。

該当書籍

農業経理士教科書【経営管理編】（第2版）（令和2年7月1日 第2版発行）
ISBN 978-4-86486-770-2

訂正内容

訂正頁・行	訂正箇所
p. 29・③固定長期適合率(%)の 説明文最後に追加	「なお、長期未払金が存在する場合には、長期借入金と類似の性質を有すると考えて、分母に含めるケースが一般的と考えられる。」
p. 34・下段図表	別紙参照
p. 58・下段右側 損益計算書	(<u>209</u> /12期 単位：千円) ⇒ (<u>2019</u> /12期 単位：千円)
p. 58・下から7行 目右側 製造原価報告書 製造経費の小計	<u>9, 665</u> ⇒ <u>13, 265</u>

p. 60及びp. 71・ 【収益性分析】 2行目	売上高利益率⇒売上高総利益率
p. 60・固定長期 適合率	67.9% ⇒ 42.9% (長期未払金含む)
p. 60・売上高現預 金比率	254.5% ⇒ 248.8%
p. 60・付加価値（ 日銀方式を採用） （千円）	9,831 ⇒ 11,031
p. 60・付加価値労 働生産性（千円）	3,277 ⇒ 3,677
p. 60・付加価値 労働分配率（%）	85.6% ⇒ 76.3%
p. 60・単収（kg ）大豆	*2を付記
p. 61・【生産性分 析】の説明文に追 加	付加価値額の計算 当期純利益＋（役員報酬＋支払報酬＋賃金手当＋福利厚 生費）＋（賃借料＋支払地代＋租税公課＋減価償却費） －3,533＋（986＋182＋7,100＋150）＋（290＋826 ＋1,200＋3,830）＝11,031千円 付加価値労働生産性：11,031千円÷3名＝3,677千円 付加価値労働分配率：（986＋182＋7,100＋150）÷ 11,031千円＝76.3%

p. 71・売上高現預金比率	<p>2017/9 : 9.9% 2018/9 : 16.1% 2019/9 : 16.7%</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>2017/9 : 8.6% 2018/9 : 15.2% 2019/9 : 14.9%</p>
p. 72・*1に式を追加	<p>2017/9の付加価値（日銀方式）の算定</p> <p>$-674 + (3,755 + 1,800 + 628 + 409) + 23 + 373 + 360 + 374 + 1,220 + 432 = 8,700$千円</p>
p. 72・【安全性分析】の説明 2行目	<p>経常収支は、 ⇒ 削除</p>
p. 114・1行目	d) 営業外利益の見積もり ⇒ d) 営業外収益の見積もり
p. 121・9行目	<p>農業収入金額」もこ <u>20750715,0002207</u>の収入予算書</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>農業収入金額もこの収入予算書</p>
p. 112 及び p. 128 ・損益計画表の事例1の表中	3段目 製造原価 (①~④+棚卸) ⇒ 製造原価 (2)
p. 112 及び p. 128 ・損益計画表の事例1の表中	<p>13段目 経常利益 (8) = (5) - (6) - (7)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>経常利益 (8) = (5) + (6) - (7)</p>

(5) 損益分岐点分析

損益分岐点分析とは、利益・売上高・費用の3者の関係を分析し、売上高と費用が一致する採算点（損益分岐点）を求め、それを利用して経営の損益状態を明らかにする手法です。

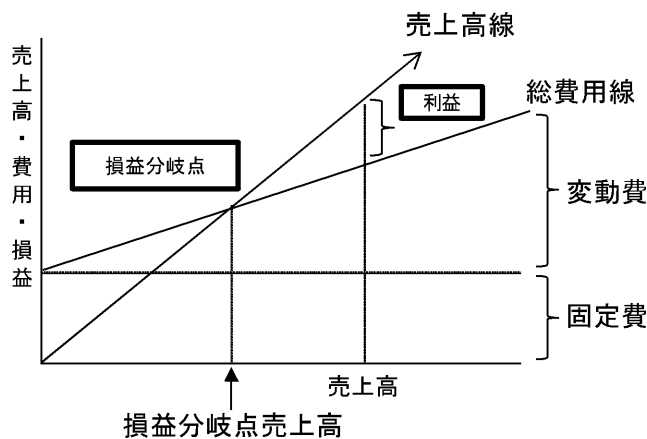
① 損益分岐点売上高

一般的な損益分岐点売上高の考え方として、費用は、売上高の変化に比例して増減する「変動費」と売上高に関係なく一定である「固定費」からなり、これを売上高から差し引いてゼロとなる点が損益分岐点となります。この売上高を損益分岐点売上高といいます。つまり、これを超える売上高であれば利益が出るのに対し、これを下回れば損失が出るということを意味しています。

農業では変動費と固定費の区分を売上高の増減ではなく、生産規模の増減によるものとし、生産規模の増減に連動して変化する費用を変動費、生産規模の増減に連動することなく固定的に発生する費用を固定費とします。

また、農業では、限界利益を求めるにあたり「変動益」を用います。変動益とは、生産規模の増減に連動して変化する収益のことであり、変動益には営業収益に属する製品売上高、作業受託収入、価格補填収入などのほか、営業外収益に属する作付助成収入を含みます。

以下第1章 3. (5) 損益分岐点分析の項において「売上高」とは「変動益」を意味するものとします。



損益分岐点売上高は次のように求められます。

$$\text{利益} = \text{売上高} - (\text{固定費} + \text{変動費})$$